

## 総論（2022年3月8日実施）

昨年につき、コロナ禍の入試となったが、それを受けてか今年も平易な出題が多く、全体の平均点は昨年並み、やや高くなるだろう。倍率にもよるが、特に上位校のボーダーラインは上がる見込み。また、数学の箱ひげ図や理科のダニエル電池、英語の仮定法など、新課程内容も早速出題されている。ただ、いずれの教科も丸暗記で答えが出るような簡単な問題は少なく、やはり、思考力を試すような問題、正確に読み取り、論理的に考え、条件に合わせて過不足なく表現する、そういった総合力が試されている。なお、昨年のような削除単元はなく、全範囲から出題された。

	2022年3月 福岡県公立入試問題分析	次年度以降の対策
--	---------------------	----------

国語	<p>変化があった去年とほぼ同じような大問構成だった。語彙や漢字に関する設問は大問1から大問2へ移動。ここ数年、60字～70字程度の記述を書かせる問題が出ていたが、今年は長くても30字程度。ただし書きにくいものもあったため、昨年よりもやや難化といったところ。問題量は例年と大きく差異はないが、試験時間が50分であることを考慮すると、情報を素早く処理していかなければならない。</p> <p><b>大問1（説明的文章）</b></p> <p>人口減少が続く日本において、それがもたらす変化に対応するための能力や態度について書かれた説明文。問二では品詞に関する文法問題が出題されたが、定番のものなので難しくない。問五では筆者の考えをくみ取る記述問題。指定語句が与えられているものの、文章全体を見渡して主張をまとめる必要があるため、書きにくかった受験生もいるだろう。問六では本文の展開や内容に関する選択問題が出題されたが、しっかり文章を読めていれば正解できたはず。</p> <p><b>大問2（文学的文章；小説）</b></p> <p>（1）老舗車いすメーカーの採用面接シーンが出題。内容も面白く読み進めやすい。登場人物のやり取りから彼らの心情を追いかけていけば、正答を重ねられたらだろう。ただし、文章量や情報量を考慮すると、正しく読み取るだけでなくスピードも求められる。空欄を作らずにすべてに答えられたかどうかは合否のカギ。問一は、「頭の中」という意味になるように「（ ）裏」の熟語を完成させる問題。言葉を知っていれば「脳裏」と答えられるが、語彙力がどの程度備わっているか。問三の記述も答えやすいが、体言止めで答えるという条件を守る必要がある。問四の抜き出しや記述も平易。問五では大問1と同じように、文章の構成や表現に関する出題。客観的に文章を捉える力も必要だ。</p> <p>（2）は（1）に関連して、車いすテニスについての資料からの出題。問一は（1）の小説の内容と資料とを照らし合わせる設問で、新しい形式だが小説の内容を読み取れていれば正解できる。問三では同音異字と漢字の総画数についての出題を融合させたような問題。去年に続き、同音異字に関する出題</p>	<p>出題内容としてはH30年度～R3年度と同様、語彙・知識問題が大問1つ分として独立した問題でした。以下、来年度以降の受験生へのアドバイスです。</p> <p>①最近の国語の入試問題はとにかくスピードが要求されます。自分のペースで読んでいると、最後まで解き終わらずに点数が取れなかったということもよくあります。正確さや丁寧さと、読む速さ・解く速さを両立しなければなりません。スピードを常に意識して読んでいく必要があります。</p> <p>②国語は語彙力です。知らない言葉に出会ったときは、その都度意味を調べるなどして、語彙力を向上させていきましょう。近年の入試問題では、前述のように語彙・知識問題が大問1つ分出題されています。漢字はもちろんのこと、類義語・対義語などの熟語、慣用句やことわざ、故事成語など、日頃から身につけていくことが大切です。</p> <p>③国語文法は、苦手とする中学生が多いです。文節と単語に始まり、文節相互の関係、品詞それぞれの働きや用法、そしてその識別など、学ばなければならないものも多く、一方で入試によく出題されることも多いため対策が必須です。まずは10個の品詞を正しく見分けられるようになることから。文法は暗記だけでは済まされず、繰り返し問題を解いて理解することで身につきます。苦手のままにしないようにしましょう。</p> <p>④古文・漢文の古典について。受験勉強のスタートとして、短くておもしろみのある文章を選び、まずは音読から始めましょう。おおまかな意味を捉えることができれば十分です。</p> <p>⑤作文の対策は、普段から「書き言葉」を意識して使ってください。話し言葉や「ら抜き言葉」「さ入れ言葉」など、作文に適切でない言葉もあります。そして、試験の場合は「条件」が設定されていますから、その範囲の中で、自分の主張を書くように心がけましょう。入試の作文は、条件を守っていないと大きく減点されてしまいます。また、作文するにあたって読み取る資料も近年は多いので、素早く情報を処理しなければなりません。</p>
----	--	---

があった。ここ近年の傾向として押さえておきたい。問五も去年に続き、行書体の特徴と漢字の部首に関する出題。こちらも傾向として押さえておく。

### 大問3 (古典)

例年、古文か漢文のどちらかが出題されるのが福岡県の公立高校入試であったが、今年は古文と漢文の両方が出された。それに加えて現代語訳、そして先生・生徒の会話文があり、計4つの文を読んで解答していく必要があったので、文章を読んでいくスピードも要求された。問一・問二では、それぞれ歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問・返り点をうつ設問であったが、レベルとしては難しくない。必ず正解したいところ。問五では、本文の内容に沿った二字熟語を、自分で考えて空所に書く設問。文章を読み取るだけでなく、自身もつ語彙力を試されるのも近年よく出題される形式だ。最後の記述も10字以上15字以内の指定で書くのに苦労はしないが、時間内にここまでたどり着けたかどうか。

### 大問4 (条件作文)

狂言についてのポスターの空白部分に入れる内容として、AとBのうちどちらがよいかを条件にしたがい書く作文。

AとBのどちらのことにも触れるという条件が今年から加わり、ここ最近の公立入試英語(英作文)での条件と似たような形だった。

受験勉強において、他の教科に比べて国語は最も勉強時間が少なくなりがちです。しかし、どの教科においても国語の力は必要とされます。素早く読んで理解し、素早く過不足なく書くことができれば、それは数学・社会・理科・英語に活用できますし、そうでなければ勉強に苦勞してしまうことになるでしょう。国語を勉強することは、読む能力・書く能力を養うことにつながります。

現中2・中1生も、一度、今年の入試問題に挑戦してみることをオススメします。学校の定期テストとは異なり、初見の文章を大問1題につき約10分で乗り切っていかなければなりません。それも国語は入試において最も緊張する最初の教科になりますから、実は思った以上に大変です。

勉強が後回しになりがちな国語だからこそ、日頃からその力を磨いていきましょう。

<p>数学</p>	<p>大問数は6題で構成も例年通り。昨年はコロナの影響での授業時間数減を考慮し、出題範囲が狭まって(三平方と標本調査が削除)の問題だったが、今年は範囲の削減はなかった。</p> <p><b>大問1 計算・小問集合</b>  計算から関数のグラフ、確率の問題などが9問。平易な問題ばかりなので確実に全問正解したいところだ。新課程内容である「累積相対度数」を求める問題も出題された。</p> <p><b>大問2 データの活用</b>  こちらも新課程内容になる「箱ひげ図」を使ったデータの読み取りの問題。ただ、基本的な知識を押さえておけば難しくはなかった。塾生は直前で対策していたので正解できた生徒が多いだろう。</p> <p><b>大問3 文字式をつかった説明</b>  今年はここが一番のポイントとなった箇所だ。半円と長方形を組み合わせた池の面積についての問題。読み取りや立式、計算にも時間がかかり、大問4以降の解きやすい問題を確実に正解させるためにも、思い切って後回しにする判断も必要。</p> <p><b>大問4 1次関数の利用</b>  毎年出題される1次関数の利用問題。近年連続で出題されている「解答を求めるまでの記述形式」の小問が今年はなかった。難易度も易しめ。</p> <p><b>大問5 平面図形</b>  図の中から相似や合同な図形をみつけたり、証明したりと、平成31年の問題と酷似。やはり(3)の問題は難易度が高い。</p> <p><b>大問6 空間図形</b>  例年通り(1)は辺や面の位置関係を問う問題で、後半は、立体の切断や展開図を使って考える問題。難易度は高めだが、上位校受験者は今年は正解したかった問題だ。</p> <p>昨年の平均は、半分の30点を下回ったが、今年は若干上がりそうだ。</p>	<p>・ <b>出題範囲はほぼすべての単元から</b>  →学校での定期テストの時から『確実に基礎を定着』させておき、中3の夏に確実に掘り起こしていく。長いスパンで計画的に身に付けていきたい。</p> <p>・ <b>問題文章そのものが長い</b>  →できるだけ短時間で意味を正確に読み取る訓練が必要。キーワード、数値、聞かれている内容をチェックしながら読み、ひとつひとつの言葉の意味を正しくつかんでいくこと。そのためにも過去問や類題で多く練習し、慣れておく必要がある。</p> <p>・ <b>記述式問題への対策</b>  →ここ数年、大問2から大問5での説明・証明といった全記述形式の問題が多かったが、今年は少なかった。対して、途中式や数値だけを記入する、いわゆる部分記述の割合が昨年より多い。やはり練習量と、正しく理解しているかがポイントになる。『全記述で解答できる』ように備えておいたほうがよいだろう。</p> <p>・ <b>記号選択問題</b>  →『正しいものを記号ですべて答えよ』形式の問題。全体で2～3問程度と、定着しつつあるがその分野の幅広い知識と、使われることばの正しい理解が必要である。正誤判断ができるよう語句の意味をよく理解し、あるいは正しい手順で計算できるようになっておこう。</p> <p><b>1、2年生へのアドバイス</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①解くための途中過程を書くクセをつけていく。</li> <li>②用語の意味を正しく理解しておく。</li> <li>③苦手な単元に対して早めに集中的に取り組む。</li> <li>④問題文を注意深くはやく読み、与えられた条件を整理できるようになる。そのためにも大事な箇所に線をひき、グラフや図形に情報を正確に記入する。</li> <li>⑤上位校を目指す生徒は、教科書の各単元の最後にある『活用』の学習もポイントになってくる。こういった形式の問題が近年出題されているので時間をかけてじっくり取り組んでいこう。</li> </ol>
-----------	--	--

<p>社会</p>	<p>バランスのとれた良問が出題されている。大問構成や出題パターン、配点等に変化はないが、ただ、出題傾向には変化が見られる。歴史や公民で「用語」を答えさせる適語補充の問題が増加し、複数の資料や図を使った難易度の高い記述問題は減少。今年の問題は「時間が足りなかった」ということはなさそうだ。解き易い問題が多い印象だが、公民がやや難化している。従来、社会科は事前の準備（暗記）による知識量がモノをいう教科だったが、思考力・記述力重視の流れは続いており、今後も深い知識が要求されるだろう。大問1と2が歴史（20点）、3と4が地理（20点）、5と6が公民（20点）であった。日曜特訓で取り上げた似た問題や直前予想プリントの的中が多く、塾生は高得点が期待できる。</p> <p><b>大問1 歴史</b> 古代から近代までの歴史。番号・記号の選択問題が減り、その分、「御恩」「奉公」や「参勤交代」などの用語を書かせる問題になった。漢字ミスに気をつけたい。問4の年代並びかえは「内閣制度の創設」がやや難しい。問5(2)江戸時代の「商品作物」に絡む貨幣経済の広まりは過去にも出題されたパターン。</p> <p><b>大問2 歴史</b> 近現代の歴史。紙幣の肖像となる人物をテーマに出題。津田梅子、北里柴三郎、渋沢栄一、新渡戸稲造。問2の明治期における軽工業（綿糸）の発展に関する記述は過去に出題されたパターン。問4はアフリカ州の国連加盟国数増加（植民地からの独立が増えたため）に関する記述。</p> <p><b>大問3 世界地理</b> 数年前と比べて、オーソドックスな問題が多く、地理の総合力が試されている。問4は中国の「経済特区」に関する出題。位置、人口、面積、農業、工業とバランスがとれている印象。</p> <p><b>大問4 日本地理</b> 問2の農業、北海道と九州南部の畜産に関する問題は、やや微妙なところ。鹿児島か宮崎かで迷ったはず。問3(1)は気候（長野）の特徴を表から見抜く問題。問4(1)の「鉄鋼」を選ぶ問題は難問。(2)はIC、自動車、石油化学、それぞれの工場分布に関</p>	<p>昨年(2021)から社会科は以前と比べて易しくなり、今年(2022)も「解きやすい出題」が多かった印象です。ただ、基本的な知識が整っているからこそ解きやすいのであり、やはり、教科書に出てくる基本用語は着実に理解しておかなければなりません。また、地理・歴史・公民、配点的には20点ずつ均等に分けられますが、ここ数年、「公民」が難しくなっており、今年は特に難化しています。中3の6月頃から公民を学校で勉強することになりますが、夏休み以降、受験勉強の時期と重なり、勉強量が不足しがちなのが公民です。私たちの生活と直結するような内容や時事的なテーマも多いので、日頃からニュースを見て世の中の動向を知るなど興味をもつように心がけましょう。</p> <p>また、記号で答える問題が減り、「用語」を実際に書かせる問題が増えました。中には漢字ミスで点数を落とした受験生もいるでしょう。中2生は普通の勉強から、漢字でしっかり書くことを意識しておいたほうが良さそうです。実際、ひらがなで書くより漢字で書くほうが覚えられますし、記憶が定着して長持ちします。心がけてください。</p> <p>もう一言、最後にアドバイスをしておきます。一問一答的な問題で丸暗記をして答えを覚えていても時間が経てばすぐに忘れてしまいます。知識をつなげていくこと、例えば歴史であれば、原因と結果をセットで覚えたり、歴史上の人物の人間関係を知ったり、関連する画像を見たりすることで知識が立体的になっていきます。そういう学習を心がけてください。ヒントは授業中の先生の話のなかにたくさんあります。よく話を聞き、想像することを楽しんでください。</p> <p>◆歴史 まずは「用語（教科書の太文字）」を正確に理解すること。次に自分できちんと説明できるようにすること。自学ノートを活用して自分で「一問一答形式のテスト問題」を作ってみるのもいいでしょう。重要年代は覚えておいて損はありません。100個ぐらいいはゴロ合わせなどで暗記しましょう。</p> <p>◆地理 基本的な最低限の知識は必要ですが、それだけでは</p>
-----------	---	--

	<p>する問題。</p> <p><b>大問 5 公民</b></p> <p>昨年は環境問題や国際社会が削除単元だったが、今年は今範囲に戻ったため出題されている。問1は「公共の福祉」が書けたか。問2が今年一番の難問だろう。特別国会を選ぶ問題だった。問3の経済の3主体は定番、問4の為替（円安）の問題が難。問5と問6の記述は難しくない。</p> <p><b>大問 6 公民</b></p> <p>SDGsの気候変動をテーマにした時事的な出題。産業部門に比べて、家庭における二酸化炭素排出量の削減が進んでいないことから、自分たちができるエコな生活について考えようという内容。</p>	<p>高得点は難しいですね。「資料やグラフに慣れ、分析する目を持つこと」を心がけてください。また、教科書以外から知り得る知識や情報も役に立ちます。ビジュアルのイメージがとても大事です。</p> <p>◆公民</p> <p>世相を反映した出題が増えていきます。テレビでニュースやドキュメンタリー番組も見たり、大人どうしの会話に割って入ったりするのもいいでしょう。身近な問題から世の中に対する見識を広げていこう。18歳からキミたちも有権者だ。</p>
理科	<p>生物分野、化学分野、地学分野、物理分野から大問2題ずつの、合計8問の構成は例年と変わりなし。1年生内容が2題、2年生内容が3題、3年生内容が3題とバランスよく出題された。記述式の問題も例年通り出題されたが、やや短めかつ頻出の問題であり易しい。光の作図問題と天体・圧力の計算問題がやや難しいか。新課程のダニエル電池が出題されたが、基本的な内容で解きやすかった。全体的に基本的な内容を問う問題が多く易しい印象ではあるが、イオンや天体、浮力など苦手とする受験生が多い分野からの出題が多く、平均点は昨年並みと思わ</p>	<p>理科は全学年の全分野から幅広く出題されます。計算問題の出題が増えてきているのも特徴です。記述式の問題や作図問題も出題されます。丁寧さ・正確さ・表現力を磨くことが大切です。苦手分野を先延ばしにせず、すぐに克服する姿勢が大切です。特に筑紫丘・明善等の公立TOP校を受験する生徒には高得点が必要とされます。</p> <p>公立高校入試合格のための理科の勉強法</p> <p>①<b>実験の意味、内容について深く理解すること</b></p> <p>実験についての出題が大半を占めます。実験器具の使い方や実験における注意事項等についてノー</p>

れる。

**大問 1 (生物分野) 植物の分類に関する問題**

被子植物のアブラナと裸子植物のマツの特徴に関する問題。基本的な内容で易しい。問4の種子植物をすべて選ぶ問題はスギナ(シダ植物)を除外できたかがカギ。

**大問 2 (生物分野) 消化・吸収に関する問題**

デンプンの消化に関する問題では4つの試験管から条件にあるものを選ぶ。ヨウ素液とベネジクト液の変化に着目して解く。問3では肝臓の働きについて出題された。

**大問 3 (化学分野) 質量保存の法則に関する問題  
(一部、中和反応を含む)**

問1は硫酸と水酸化バリウム水溶液の中和の化学反応式を完成させる問題。問3の記述式の問題は易しい。

**大問 4 (化学分野) ダニエル電池 ※新課程**

単元としての難易度は高いが、出題されたのは基本的なものであった。問3では燃料電池が出題され、環境問題に関する内容が出題されている。ちくしんでは直前に深い内容まで触れていたため、受験生は易しく感じたようだ。

**大問 5 (地学分野) 湿度・露点に関する問題**

記述式の問題は基本的な内容。問2は乾湿計の目盛りから求めた湿度を利用して水蒸気量を求める問題。

**大問 6 (地学分野) 太陽の日周運動に関する問題**

問1の日の出の時刻を求める問題は難しい。直前の日曜特訓で同じ問題を解いていたのでちくしん生はよくできていたはず。

**大問 7 (物理分野) 光の進み方に関する問題**

光の反射・屈折・全反射と幅広く出題された。問1の作図によって求める問題は像ができる位置を利用して解く問題で定規を使えない中、正確な作図が求められる。

**大問 8 (物理分野) 水圧と浮力・圧力に関する問題**

問1でグラフの作図、問2では浮力の計算が出題されたがどちらも易しい。問4の圧力を求める問題は単位変換が必要で難しい。

トにまとめていくと良いでしょう。

**②計算力を磨こう**

すべての分野で計算問題が出題されます。練習問題を繰り返し解くことでチカラがついてきます。特に理科の計算では単位についてよく理解していることが大切です。単位計算についてもノートにまとめていくと良いでしょう。

**③表現力を身につけよう**

記述式の問題が多く出題されます。適切な語句を用いて表現することは入試直前で身につくことではありません。日頃から、自分の言葉で説明でき、また書けるように練習しましょう。

**④教科書を何度も読もう**

公立高校入試は教科書の内容から出題されます。教科書を何度も読むことで理解を深めましょう。

<p>英語</p>	<p>新教科書となって最初の入試ということもあってか、心配していたほどの大きな変化はなかった。仮定法や使役動詞といった新分野が出題されたことや、使われる英単語や英語表現のレベルが上がっていることを加味しても、平均点はそれほど昨年と変わらないと予想される。</p> <p>リスニング 形式、難易度とも昨年並み。</p> <p>1 (対話文選択) 対話文の空所補充問題で形式は例年通りだが、正答の選択肢は今年から中学内容に加わった「仮定法」を用いた文。If I were you, I couldn't think like that. = もし私があなただとしたら、そんな風には考えられないだろう。また他の選択肢にも、I wish ~ という仮定法の表現が含まれている。</p> <p>2 (対話文読解) 形式、難易度とも昨年並み。語句整序問題は、接触節(「主語+動詞～」による後置修飾)と間接疑問文の問題だったが、ちくしん生には何度も練習させてきており前日の対策授業でも扱ったので、正答率は高いはず。問2、問3の空所補充問題や問4の英語の質問に対する正しい答えを選ぶ問題は、選択肢の英文が去年より少し長かったものの、文脈をとらえていれば正解できる。また、一昔前なら(注)で意味が書いてあった traditional, improve, instrument, actually など意味は書かれておらず、求められる単語力は上がっている。</p> <p>3 (エッセイ文読解) 形式、難易度とも昨年並み。問3の下線部②that job の具体的な内容を日本語で書く問題は、give water to my fruit trees の部分を日本語で書けば良いが、解答欄が2行もあったことで戸惑った受験生もいただろう。こうした記述問題は年によって、非常に長い場合もあれば、短い場合もある。大切なのは答えにあたる英文を探し、求められていることを過不足なく書けることである。</p> <p>4 (自由英作文) 形式は昨年よりシンプルになり、テーマも書きやすいので易化。30語以上の英作文は今年で6年目。留学生と仲良くなるための計画をスポーツ観戦、料理の2つから選び理由とともに書くもの。「二つの案</p>	<p>①英単語 まず、何となく意味のわかる英単語の量を増やしていくことからです。英文を読んでいく時には、全ての英単語の意味がわからなくても、大きな流れを捉えていくことを優先することも大切です。しかし、いい加減な覚え方ばかりしてはダメで、新しく出会った英単語は①発音・アクセント②品詞(名詞・動詞・形容詞など)③意味④使い方(実際に英文の中でどう使うか)など、意味以外のこともチェックする習慣をつけましょう。今年リスニングでも、abroad や clothes など少し難しめの英単語も使われており、聞いてすぐ認識できるレベルにしていないと対応できません。英作文でも意味だけしか知らないと正しく書けません。例えば go は〈go to + 場所〉の形で使うけれど visit は〈visit + 場所〉の形になるなど。英単語の力は(1)確実に使いこなせるものと(2)何となく意味がわかるものとの成り立っていて、(1)も(2)も両方とも増やしていく努力を続けることです。覚える時も、見る・聞く・声に出す・書く、と五感をフル活用しましょう。</p> <p>②英文法・英作文 英会話などが瞬間的なものだからルールとか考えるより感覚だと言っても、中学の英文法は基礎の基礎です。「何となく」をできるだけ減らし、立ち止まって正しく理解し、ルールに基づいて英文を読んだり書いたりする姿勢を持ちましょう。自学の時に、その確認を丁寧に行うようにしておけば、テストの時や実際に英語で話す時にも瞬間的に正しい文が作れるようになります。</p> <p>③英文読解 まずは教科書の英文を徹底しましょう。</p> <p>(1)音読：教科書の英文はQRコードで音声を聞けるので、聞きながら読む。音声に少し遅れて音読する(シャドーイング)。</p> <p>(2)和訳：英語から日本語に直せるようにする。最初は和訳を書き、誰かに正しいか確認してもらう。その後は英文を読みながら、頭の中で正しく意味を言えるか確認する。</p> <p>(3)英訳：英文の和訳から逆に英文を書いてみる。間違えた部分やわからなかった部分を復習し、覚えたり理解したりする。全部の文をするのは大変なの</p>
-----------	---	--



について触れながら」という条件をきちんと守って書けたかがポイント。

で、自分のレベルによって調節しよう。

(4) その後は間をおいて時々(1)～(3)を行い、定着させる。

また、英語の問題集などを使って、初めて見る英文を読んだり問題を解いたりする練習も行っていくと、さらに読解力を鍛えられます。その場合も1度だけで終わりにせず、答え合わせや和訳の確認をした後で、何度も読み返すようにしましょう。

#### ④リスニング

リスニングを他の勉強と分けて考えずに、英単語や英文法、そして英文読解の勉強をする時にも、上記のように聞き取りや音読を組み合わせる勉強していくことで英語を聞き取る力もついていきます。入試直前になって慌てても間に合いません。最近ではネット動画やアプリ等、無料で様々なツールを活用してリスニングの練習もできますので、地味な努力ではありますが、できるだけ音声に触れるように心がけましょう。私は好きな洋画を英語の音声と字幕に見たり、サブスクの音楽で英語の歌詞を表示させたりして勉強しています。

#### ⑤最後に

改訂版の教科書で使われている英単語や表現は、中3が英検準2級程度のレベルとなっており、英文の分量も増え、以前より実用的な英語で構成されていますので、英検に挑戦して総合的な力を磨くのもいいでしょう。中3の間に3級または準2級の取得を目指したいですね。また、生きた英語に触れるなら、ちくしんのRevo-Englishが最適です。読む・書く英語と、話す・聞く英語の相互作用や、ネイティブ相手に実際に使いながら学ぶことで強く印象に残ります。自分に合った続けやすい方法で英語学習に取り組んでいきましょう。